



発行責任者 病院長 岡野友宏
編集責任者 広報委員長 山本松男

〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1 TEL 03-3787-1151

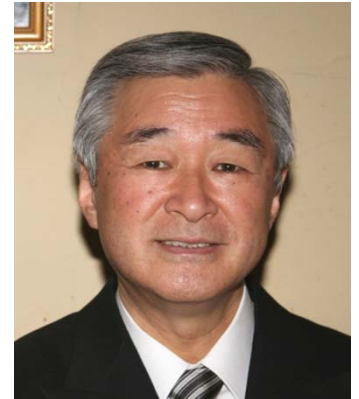
ホームページ: <http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/>

食べる楽しみ

歯科保存科・科長 久光 久

日本は高齢社会に突入し、世界有数の長寿国になりました。長寿は嬉しいことですが、健康で楽しく長生きしなければ、長寿の意味はありませんね。私も、楽しいことを色々見つけて、人生を豊かに送りたいと願っている一人ですが、年をとるにつれて「食べる楽しみ」の割合が大きくなっていくのを感じています。「食べる楽しみ」を出来るだけ持続させるためには「歯の健康」が重要な要素となることは皆様も十分にお分かりでしょう。多くの患者さんから「歯を失って初めて歯の大切さがわかりました。若いときからもっと歯を大切にしておけばよかった」という後悔の言葉をよくお聞きします。残念なことです。80歳で平均残存歯数が10本弱というのが今の日本の現状です。これでは「食べる楽しみ」は半減してしまいます。料理は味だけでなく、歯ざわりや歯ごたえからも美味しさを感じるからです。ここで興味深いアンケート調査をご紹介します。2001年にライオンが東京丸の内(以下 T)とニューヨーク(N)で30~40歳の男性ビジネスマン 1,000人を対象に行ったアンケートです。これによると「自分の歯に自信がある」が T:8%, N:69%、「歯の健康診断の習慣がない」が T:62%, N:8%、「虫歯や歯周病の治療のために歯科医院に行く」が T:100%, N:35%でした。このアンケートからわ

かることは、アメリカ人は虫歯や歯周病にかからないようにするために歯科を受診し、日本人は虫歯や歯周病にかかって症状が出てから歯科を受診するということです。



虫歯や歯周病になってからだと、残存歯数が減ってしまうのは仕方がないですね。もっと予防に目を向けて歯をいたわり大切にしましょう。食後には歯を磨いて汚れを取り除く。もし1日に5回食べたなら5回磨くということです。磨かないでいると歯がぬるぬるして気持ち悪いですよね。歯もかわいそうです。また、ただ磨けばよいのではなく、きちんと汚れを落とす磨き方をすることが大事です。そして年に2回は歯科を受診して、プロによるクリーニングで歯石や茶渋などの汚れを落としてもらいましょう。このように予防に重点を置いていくと歯を失うリスクが低くなります。年をとったら歯が無くなるのは仕方がないなどとあきらめないで、自分の歯を健康に保ち、いつまでも「食べるのが楽しい人生」を送りたいですね。



歯科保存科紹介(専門:保存修復学)

当教室は1977年4月の昭和大学歯学部創設と同時に第二保存学教室として開設され、6月の歯科病院開院と同時に、現教授の久光を中心に7名で診療を開始しました。専門は虫歯を治療する保存修復学になります。1979年には東北大から和久本貞雄が主任教授として着任し、医局員も11名になり、教室の基礎ができました。和久本は1983年に病院長1985年に学部長を歴任し、1991年に定年を迎えました。その後久光が教室を引き継ぎ現在に至っています。2004年の機構改革に伴い歯内療法を専門とする第一保存学教室と統合し齲蝕・歯内治療学教室となり、翌年には新設の総合診療歯科に長谷川篤司が転出しました。また新設診療科として美容歯科が発足し、真鍋厚史が科長に就任しました。

当教室は設立時から「患者さんの痛みがわかる歯科医」の育成を理念としております。技術や知識を身につけ単に治療ができるだけではなく、思いやりや態度、言葉遣いなどを包括し、広い視野で治療に取り組む総合教育を目指し、臨床実習や卒後研修の指導に取り組んでいます。

診療は、接着性材料を積極的に使用し歯をできるだけ削らずに修復するMI(Minimal Intervention)の概念のもとに虫歯治療を行うとともに、歯科ドックを開設して予防と健康維持にも力を注いでおります。日本ではいち早く歯の漂白にも取り組んでおり、審美治療

も教室の得意とするところです。有病者や歯科恐怖症で歯の欠損や歯周病を伴っている複雑な症例でも、虫歯の治療を主訴として来院される場合が多く、歯科麻酔科の協力の元に一口腔単位のアプローチも行っています。研究の領域は修復材料、接着、漂白アレルギーなど多岐にわたっております。当教室では設立当初から積極的な海外研修派遣を行っており、多くのスタッフが海外留学を経験しております。派遣先はデ、マーク王立歯科大学、アーヘン工科大学(独)、ケルン大学(独)、ペイラー大学(米)、アラバマ州立大学(米)、フォーサイズデンタルセンター(米)などであり、教室の大きな財産となっております。

医局長 成澤 英明



歯科衛生士室紹介

歯科衛生士室が一部署として組織されて早3年が経過しました。私たち歯科衛生士は歯科病院開設に伴い採用された職種であり、歯科室が設置されていない病院ではなじみの薄い職種かもしれません。主な業務内容は診療の補助や外来または病棟で患者様のお口の健康を維持する為のサポート(お口に関わる病気の予防など)を中心とした活動です。現在歯科衛生士室には昭和大学全体で37名(昭和大学病院2名、藤が丘病院2名、烏山病院1名、歯科病院32名)が在籍しております。近年は病院内外での口腔管理に比重が置かれる傾向にあり、病棟や在宅での口腔ケア活動も我々の業務の一端として認識されるようになってきました。口腔ケアは単にお口をきれいにするだけでなく、口腔から入る刺激により患者様の意識がはっきりする、話す、食べるなどの口腔の機能を維持・回復させる効果の一端も担っています。これらの業務以外に患者様向けの口腔衛生活動として、お口の健康に関する情報の提供をポスターやリーフレットなどにより行っています。特に全国的なイベントとしての『歯の衛生週間』(6月4日)の時期には、年度ごとのテーマを決めてポスター作成をしています。他に、年1回の公開講座後に参加者に対して口腔衛生活動として「歯の磨き方相談」を行なっています。最後にこの4月から昭和大学口腔ケアセンターが立ち上がり、外来以外での歯科衛生士の活躍の場が増えることは職種のPR効果もあり嬉しい限りです。今後、歯科衛生士として様々な場面での口腔ケア活動に、専門性を生かし今まで以上に貢献できるよう次第です。衛生士長 日山邦枝

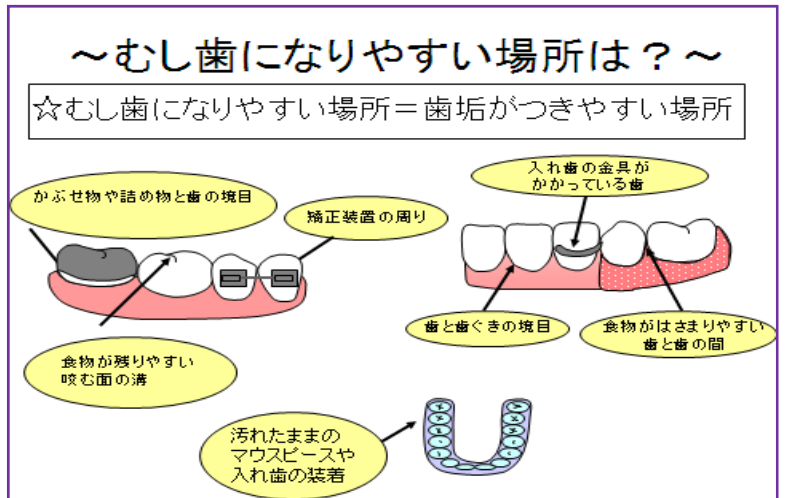
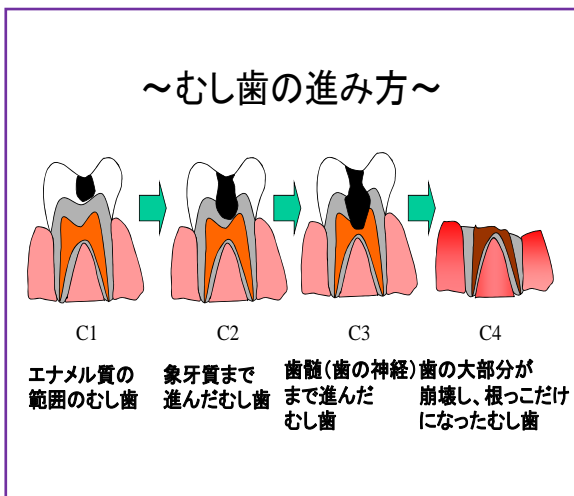
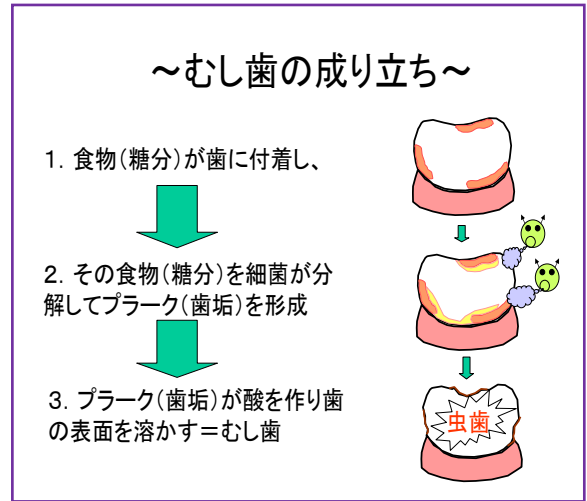
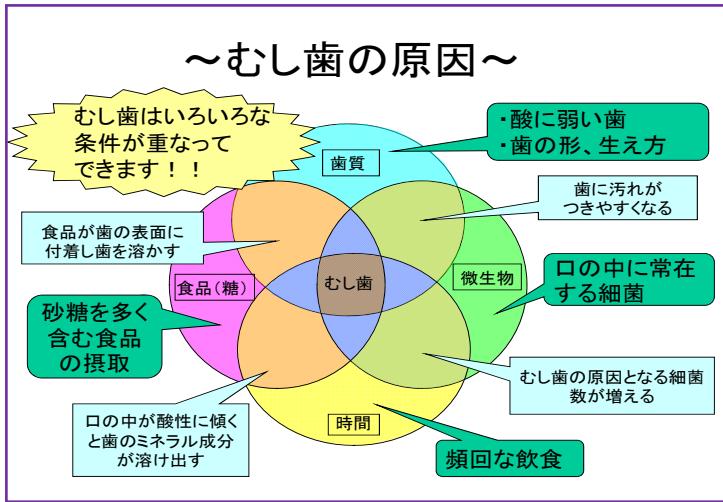




歯の衛生週間は「6(む)4(し)」に因んで、6月4日を「虫歯予防デー」としたのが始まりで厚生労働省、文部科学省、日本歯科医師会が、歯の衛生に関する正しい知識を国民に対して普及推進、歯科疾患の予防処置の徹底を図り、併せてその早期発見、早期治療を励行することにより歯の寿命を延ばし、国民の健康の保持増進を寄与することを目的として1958(昭和33)年から実施している事業です。



当院では、毎年この期間に1階総合受付・エントランスホールのプラズマテレビにて、お口の健康保持・増進・歯科疾患の予防に関する情報を配信しております。今年のテーマは『むし歯について』むし歯の原因、成り立ち、むし歯になりやすい環境とは？です。むし歯を予防する方法として、ご家庭では、①食後の歯磨き、②バランスの良い食事を摂る、③間食(糖分摂取量のコントロール)などがあげられます。また、歯科医院では、①定期的なチェック、②専門的なクリーニング、③正しい歯磨き方法を知るなどがあげられます。



詳しくは、歯科医師、歯科衛生士にご相談ください。専門家によるケアは、5階「お口の健康外来」で行っております。

治験について

臨床試験支援室

新医薬品の臨床試験の実施の基準(GCP・Good Clinical Practice)の実施に伴い、薬局内に臨床試験支援室が設置されてから10年が経過しました。この間に行った臨床試験は、第Ⅱ相~第Ⅲ相で17件(555症例)ありました。当院では臨床試験を円滑に行うために治験コーディネーター(CRC・Clinical Research Coordinator)業務を薬剤師、看護師、歯科衛生士がそれぞれの職域で協力し、臨床試験が適正に評価されるように、また、患者さんの安全性の確保、人権の尊重といった倫理面にも十分に配慮し、業務を行っております。

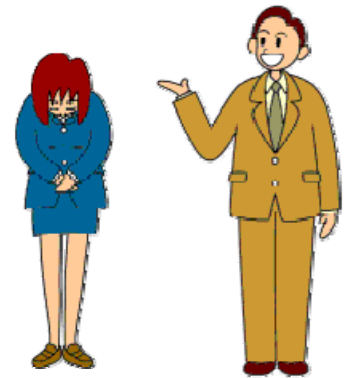
ただいま、当院では『抜歯後の鎮痛剤』の治験を実施しております。「親知らずのある方」でご興味のある方は、2階口腔外科または薬局までお問い合わせください。

臨床試験支援室(薬局長) 岡田 道子



4月の講習会開催報告

日時:4月21日(月) 18:00~19:30
場所:昭和大学歯科病院 第2臨床講堂
演題:「接遇の基本と実践」について ~笑顔、傾聴、共感~
講師: 浅田 均 先生
受講者:99名



4月21日浅田均先生を講師に迎え『接遇の基本と実践』をテーマに講習会を行いました。近年、患者さまが主観的に病院を評価し選ぶ時代と言われています。私たちは患者さまに選ばれる病院となる為に患者サービスの向上をはかっていかなければなりません。そのなかで、第一印象を左右する言動の3要素として①言葉(内容)②態度・表情③声の調子 を重点にロールプレイング方式で講習を進めていきました。②の態度・表情については第一印象の中で55%を占めるほど大切なポイントであるため、人と接している時だけでなく院内を歩いている時など常にみられているという意識をもつこと、また“口角10度の笑顔”を心掛けることで病院全体のイメージが変わっていくのではないかと思います。今回はスペースの都合上、人数を限定しての講習会となりましたがまたこのような機会がもてればいいと思います。

みなさんも今日から“口角10度の笑顔”を意識してみてもいいのではないでしょうか。

医事課 村田 久子



ご意見・ご要望について

みなさまからお寄せいただいた貴重なご意見・ご要望は、病院長および関連部署へ報告しております。改善すべき点や取り入れたほうが良いこと等できる限り対応したいと考えております。今後もお気づきの点やご要望をお聞かせください。

車椅子用トイレについて	「何かあった場合に不安で鍵をかけていません。鍵の開閉に関係なく、室内照明は扉が開いた際に点灯・退室時手動消灯がよいのではないかとのご意見をいただきました。照明は人の出入りにより感知するオートスイッチになっております。また、ご気分が悪くなられた際等は、室内に設置してありますナースコールをご利用ください。警備員が直ちに対応いたしますのでご安心ください。
診療中の呼び出しアナウンスについて	「診療中に診療室内に他者(個人名)の来院・キャンセルの伝達アナウンスがありますが、必要なものなのでしょうか。このために先生の話が聞きとりにくく、騒音に感じます。BGMでも流してはいかがでしょうか。」のご要望をいただきました。患者さんのご氏名をアナウンスすることは、個人情報に関係もあり望ましいことではありません。今後、予約システムの充実・早期稼働できるよう検討して参ります。

編集後記

右の写真を見て下さい。女の子がカラオケのマイクを持っているのではありません、姪がタンポポ(蒲公英)の綿毛を持っているところです。みなさんも子供の頃、タンポポの綿毛を見つけると必ずつといていいほどふうつと息を吹きかけ、タンポポの思惑通り種子を遠くへ飛ばしていましたよね。子供の楽しみとタンポポの思惑、見事に調和していて双方に良いことがあります。みなさんも「このちょっとしたことで相手を喜ばせ自分にも良いことがある」これならみんなできるとか出来そうじゃないですか。ガソリンの暫定税率等の問題や何やらで政治の世界は混迷を極め、日本の方向性もままになりませんが、庶民の我々は少しだけ工夫して廻りの人を喜ばせ日本を明るくしましょう！(K.A 記)

